

# 学認対応IdPホスティングサービス 実証実験の報告と紹介

清水 さや子

国立情報学研究所

# 概要

---

1. 学認対応IdPホスティングサービス検討の経緯
2. 実証実験2023の中間報告  
(2023年2月～現在継続中)
3. 新しいお知らせ、ご案内

# 学認対応IdPホスティングサービス 検討の経緯

- 現在、学認の参加機関数は約300  
↑ 全国の学認参加対象機関数に対する約30%

- 未参加機関の理由：

- A) 人間的な問題（運用する人材、参加検討する人材の不足）（58件）
  - B) 技術的な問題（サーバの構築や運用ができないなど）（23件）
  - C) 金銭的な問題（20件）
  - D) 必要かどうかわからない（11件）
  - E) 委託業者が分からない（9件）
  - F) 現在は不要である（5件）
- などなど

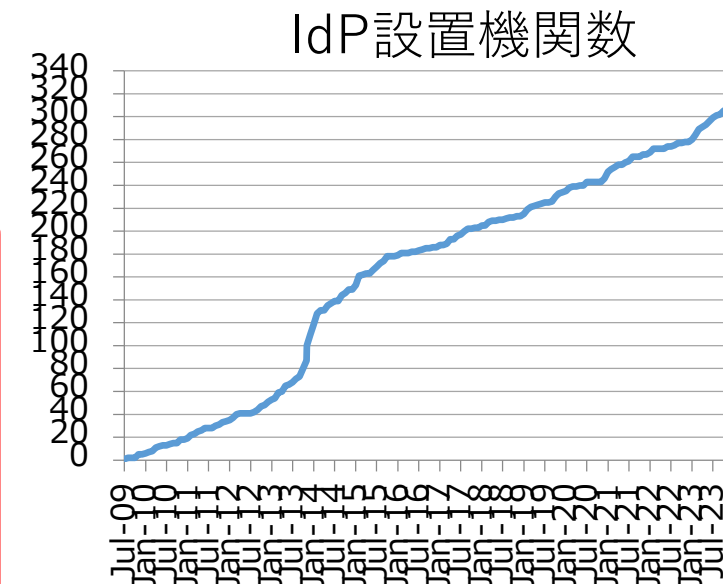
➡IdPサーバの構築、運用がネックになっている場合が多い

※（ ）内の件数は2022年10月のSINET参加機関を対象としたアンケート結果（複数回答可）

※ 参考URL <https://www.gakunin.jp/document/684>

- 次世代学認では、全ての人が認証できるようにしたい、認証レベルを上げたい
- もっと多くの機関に学認参加していただきたい

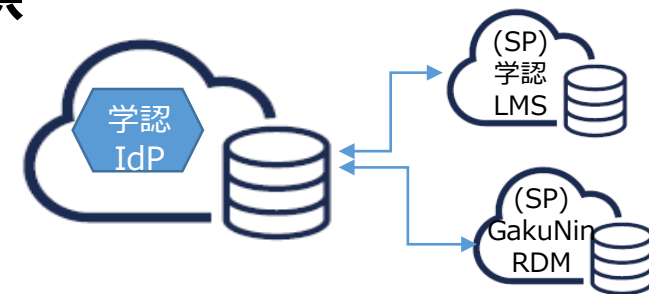
**➡ 学認参加の障壁を下げるため、障壁の一つであると考えられるIdPを、  
NIIで貸し出すためのサービス（学認対応IdPホスティングサービス）を検討開始**



（2022年度～）

# 学認対応IdPホスティングサービス 実証実験2023の概要

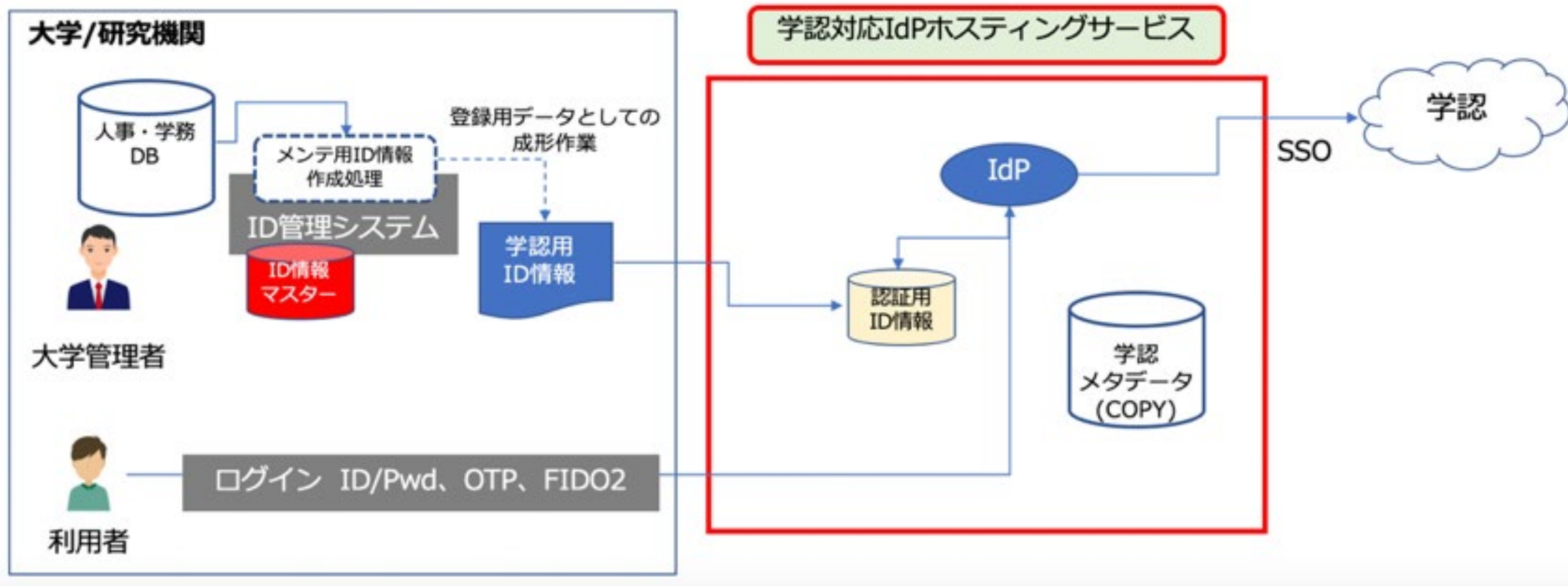
- 実証実験の目的：提供サービスの内容、参加機関における課題の分析
- 実証実験の内容：
  - 対象機関は、学認への参加を予定または検討中であり、IdPの構築、運用に課題がある機関、または、既に学認に参加しIDaaSへの移行を検討している機関
  - **学認対応のIdPサーバをクラウドサービス（IDaaS）として提供**
  - 実証実験の期間は、2023年3月～2024年4月の約1年間
  - 単なるIDaaSとして提供するだけでなく、**各種支援も提供**
    - ✓ 学認への参加手続きに関する支援
    - ✓ IdPホスティングサービスへの初回アカウント登録支援（2回目以降は機関側で対応）
    - ✓ IdPホスティングサービスの設定操作の支援
    - ✓ 学認に関するメタデータの登録支援
    - ✓ SP接続時の設定支援（5つまで。6SP以降は機関側にて対応）
    - ✓ 学認参加IdP運用状況調査の一部回答サポート など
- 募集～開始の流れ：
  - 2023年1月 協力いただける機関（実証実験参加機関）の募集、全応募機関とヒアリング
  - 2023年2月末 参加機関（10機関）の決定
  - 2023年3月～ 実証実験2023開始
  - 2024年4月～ 実証実験2023継続（1年間）開始



参考 <https://www.gakunin.jp/node/687>

# 学認対応IdPホスティングサービス実証実験2023

## サービス構成



# 学認対応IdPホスティングサービス実証実験2023

## 参加機関の状況

- 実証実験参加機関数：10機関、合計約20,000アカウント

|    |     | アカウント数           |
|----|-----|------------------|
| 1  | S大学 | 1700（教職員＋全学生）    |
| 2  | B大学 | 7500（教職員＋通学課程学生） |
| 3  | H院  | 100（教職員）         |
| 4  | K館  | 100（教職員）         |
| 5  | K所  | 350（研究者＋職員）      |
| 6  | T大学 | 2000（教職員＋全学生）    |
| 7  | A大学 | 1600（教職員＋全学生）    |
| 8  | K大学 | 1000（教員のみ）       |
| 9  | S大学 | 450（教職員のみ）       |
| 10 | K大学 | 6400（教職員＋全学生）    |

（特徴）

- 既にUPKI を利用していた機関は7機関
- 学認参加済機関は0機関
  - 10機関とも学認未参加
- ID 管理システムを導入していた機関は3機関
  - すべてオンプレで導入
  - 該当の3機関は比較的大規模な組織
- 認証サーバにAzureAD を利用している機関は7機関

（実証実験開始時点、2023年4月）

# 学認対応IdPホスティングサービス実証実験2023

## 参加機関における利用SP ランキング

|    | SP名                                                 | 利用機関数 |
|----|-----------------------------------------------------|-------|
| 1  | 学認クラウドゲートウェイサービス                                    | 9     |
| 2  | NII FileSender                                      | 8     |
| 2  | CiNii Research                                      | 8     |
| 4  | GakuNin RDM                                         | 7     |
| 4  | meatwiki                                            | 7     |
| 4  | 学認申請システム                                            | 7     |
| 4  | eduroam JP 申請システム                                   | 7     |
| 8  | しぼすけ                                                | 6     |
| 8  | eduroamJP 認証連携IDサービス                                | 6     |
| 10 | GakuNin Federated Computing Services at NII (trial) | 5     |
| 10 | NII GakuNin LMS                                     | 5     |
| 10 | NII attrviewer sp2.0                                | 5     |
| 13 | APRIN eラーニングプログラム(eAPRIN)                           | 4     |

(参考)

### 3機関利用SP

- meatmail
- researchmap
- 医中誌Web

### 2機関利用SP

- Maruzen eBook Library
- ジャパンナレッジLib
- Refworks
- Atypon SP
- 医書.jp
- Elsevier
- Taylor & Francis Online
- メディカルオンライン
- Springer
- Semantico
- mdx
- EBSCOhost
- 求人検索NAVI
- JAIRO Cloudから学認へのproxyサービス

(2024年3月時点)

# 学認対応IdPホスティングサービス実証実験2023

## 参加機関の参加理由と実現できたこと

- 実証実験参加理由：
  - 学認参加のメリット、利便性の確認
  - 希望SPの利用、必要性の確認
  - IDaaSの有効性の検証
    - 運用面、費用面、セキュリティ面など
  - IdP構築ができなかった（人材、スキル不足のため）など
- 実証実験で実現できたこと：
  - 支援サービスにより学認に参加できた
    - 学認参加やSP利用申請の方法が分かった
  - IDaaSの検証ができた
    - IDaaSの各種操作、SP設定方法などがわかった
    - 運用に必要なスキルを確認できた
  - 希望SPが利用でき、学認の必要性の確認ができたなど

### 導入フェーズ完了時の評価

- IDaaSの機能全般：
  - 満足・やや満足：70%
  - どちらともいえない：30%
    - 「どちらともいえない」理由は、まだ使いこなせていないため不明
- 構築支援サービス：満足・やや満足：100%

（実証実験参加機関向けアンケートおよびユーザ会（2023.7）より）



# 学認対応IdPホスティングサービス実証実験2023

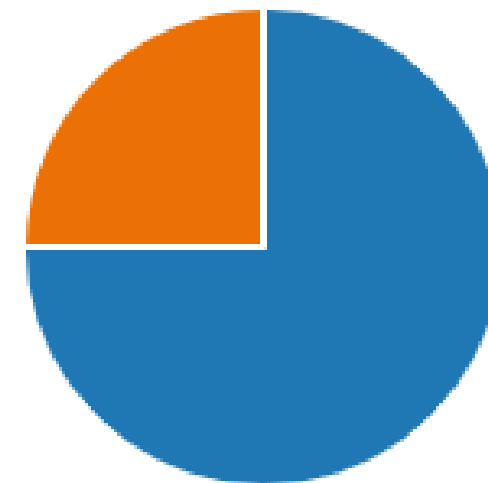
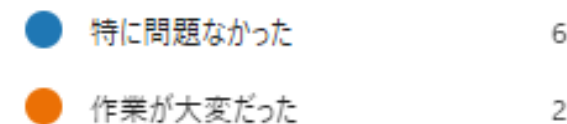
## 参加機関における年度替りのID登録削除作業の負荷状況



GakuNin

- 特に問題なかった機関（6機関）のコメント
  - 学認ID取得は申請制のため、大きな問題はなかった
  - スムーズに作業ができた
  - 退職者一覧のリストを確保しており、CSVと照らし合わせることによるユーザーの特定が容易であったため
  - CSVインポートにて一括の処理ができたため など
- 作業が大変だった機関（2機関）のコメント
  - 登録削除のタイミング調整が難しかった
    - 年度替わりの業務多忙の折だったため
    - 契約ユーザ数の都合上、新入生登録の前に卒業生を先に削除しなければならなかったため

Q.卒業・入学（退職・就職）のためのIDの登録・削除作業の負荷について教えてください  
（前問で、年度替わりの卒業・入学（退職・就職）のためのID登録・削除作業は実施したと回答した機関のみ回答）



# 学認対応IdPホスティングサービス実証実験2023

## 実証実験に参加することで出てきた課題

- 機関内への対応
  - 機関内におけるIdP運用、SP利用時のルール作り
  - 機関内におけるIdP、SPの利用普及
    - 説明会の開催、マニュアル整備など
  - 機関内におけるIdPの運用人員の確保、今後の予算の確保
  - 機関内での要望対応（利用したいSPの調査）
- 自組織に所属していない共同研究者などの対応
  - 組織の在籍者は、教職員、学生、留学生、研究員、派遣契約社員、客員教員など
  - さらに、自組織所属ではない共同研究者などが在席している場合もあり
  - 他組織所属の共同研究者と同じSPを利用したい

➡ NIIで別プロジェクトとして対応中

など

# 学認対応IdPホスティングサービスに関する 新しいお知らせとご案内

## 「学認対応IdPホスティングサービス実証実験2024」 実施が決定！！

- 実証実験2024のサービス概要は、実証実験2023をほぼ踏襲

- **学認対応のIdPサーバをクラウドサービス（IDaaS）として提供**

- ID管理（IDの登録、変更、削除など）機能、ログ管理機能を搭載
- 他のIdP（AzureADのIdPなど）と連携するための外部IdP連携機能を搭載
- ハードウェア/ソフトウェアのバージョンアップを随時対応
- 認証の高度化に向けたFIDO2、メールOTP、アプリ(Authenticator)対応
- 監視センターからの24時間365日の監視サービスと脆弱性対応、セキュリティパッチの随時更新

- **各種支援サービスの提供**

- 学認への参加手続きに関する支援
- IdPホスティングサービスへの初回アカウント登録支援  
（2回目以降は機関側で対応）
- IdPホスティングサービスの設定操作の支援
- 学認に関するメタデータの登録支援
- SP接続時の設定支援（5つまで。6SP以降は機関側にて対応）
- 学認参加IdP運用状況調査の一部回答サポート

など

# 学認対応IdPホスティングサービス実証実験2024

## 募集内容など

- 募集内容の紹介（一部抜粋）

- 対象機関：
  - 学認への参加を希望していること
  - もしくは、学認参加済で、IDaaS（ID as a Service）への移行を検討していること
  - 組織内で、学認に参加することの了解が得られること
  - 人員・コスト不足などにより IdP の構築や運用が困難であること
  - 利用に関する調査に協力すること（年に2,3回予定） など
- 実施期間：2024年8月15日～3月31日
- 募集機関数：40～50機関
- 総ユーザ数：100,000ユーザ（1機関あたり平均2,000ユーザを想定）

※ ↑若干変更になる可能性があります

- 別途、説明会開催予定（7月上旬予定）
- 詳細は、後日、Webとメールにてご案内予定